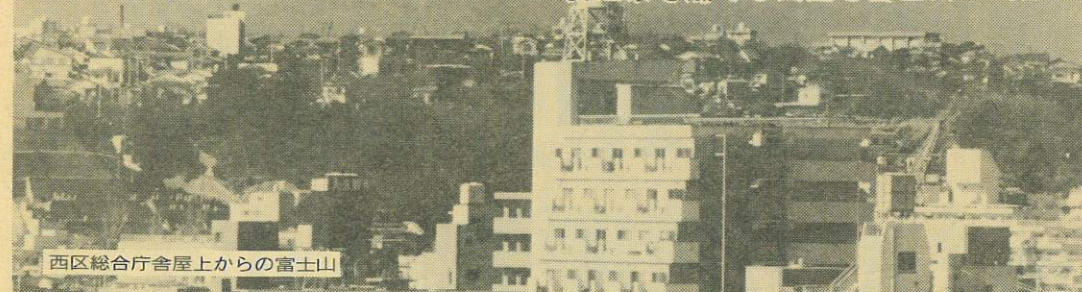


富士山

81km余を隔てる西区と富士山の関係



西区総合庁舎屋上からの富士山

昔、盛んだった富士山信仰

富士山の姿は美しく、昔から霊峰として人々の心をとらえていました。そのため、富士山を対象にした信仰も古くから盛んで、西区内にも富士信仰を軸とする団体である富士講が誕生しました。

浅間町周辺の人々も富士講を作り、毎年富士山に登っていました。浅間神社のある袖磨（そですり）山を富士山に見たてて山の中腹を歩くお中道めぐりも行なわれていました。

富士講は西戸部町にもあり、町内に神社を祭り、富士登山を行っていました。中央一丁目の杉山神社の境内にある浅間神社は、西

戸部町から遷座したもので、富士登山の記念碑が富士講が盛んだったころをしのばせます。

なかには、富士山の見える場所に富士山の形に似せて作った富士塚に登る富士講もありました。境之谷公園付近は、以前は西戸部町字富士塚という地名で、かつてこの地域に富士塚があったといわれています。

富士の裾野で手柄をたてた御所五郎丸！

源頼朝は、鎌倉武士の士気の高揚をはかって、たびたび富士山の裾野で巻狩りを行ないましたが、建久4年(1193)の巻狩りのとき、曾我兄弟が父の敵(かたき)工藤祐経を打ち取るという事件がおきま

した。このとき、兄弟を祐経の館に導き本望を遂げさせた後、弟の五郎時致(ときむね)を捕え差し出したのが御所五郎丸で、言い伝えによると、御所五郎丸は戸部村の領主で、御所山町の町名は五郎丸に由来するといわれています。

富士山と西区は地下でつながっている!?

曾我兄弟の打ち入りのとき、兄の十郎祐成(すけなり)を捕えたのは仁田(にった)四郎忠常という武士ですが、何と、彼もまた西

校歌に出てくる富士山

西区内に位置する学校では、小中高校14校のうち東小学校、平沼小学校、一本松小学校、老松中学校、岡野中学校、西中学校、横浜平沼高校、富士見丘学園の校歌に富士(山)の名がでています。

区に関係ある人物です。

建仁3年(1203)の6月に、將軍源頼家(頼朝の子)が富士山麓に巻狩りに出かけたとき、大きな洞穴を見つけ、仁田四郎に洞穴がどこまで続いているのか調べさせました。仁田四郎は主従5人で洞穴に入り、翌日になって家来1人のみをつれて戻って来たということが「吾妻鑑」(あづまかがみ)に出ています。西区の言い伝えによると、そのときは出たところが袖磨山の中腹にある洞穴だということです。

実際には横穴墳墓の一つであろうと考えられるこの洞穴は、「富士の人穴」と呼ばれ、東海道を旅する人たちの名所になっていましたが、がけ崩れの危険のため、現在は埋められています。

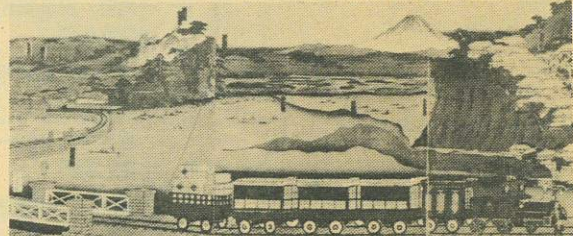
車や電車がなかった江戸時代の人たちにとって、横浜と富士山が洞穴でつながっているというのはS F的で雄大なロマン

を感じたことと思います。

小島烏水が讚えた西戸部からの展望

日本人で初めて槍ヶ岳に登った登山家で、文芸評論家、紀行作家としても知られている小島烏水(明治6年~昭和23年)。彼が明治38年に著した「不二山」の中に、西戸部町から見た山々についての描写があり、秩父山塊から大山・丹沢、そして富士、箱根へと続く山岳展望を大自然の神が描いた絵のようであると讚えています。

彼は、5歳のときから56歳まで西戸部町に住んでいましたが、山



▲一躍斉国揮画「神奈川蒸気車鉄道の図」(明治3年)に見る富士山。画面左側の海面が現在の横浜駅。

に行きはじめた遠因の一つに西戸部町から見た富士山の景色の見事さがあったことと思われます。

<主な参考文献>

- 『横浜市史稿(地理編)』
- 『新編武蔵風土記稿』
- 『不二山』小島烏水著
- 『ものがたり西区の今昔』